URAWA ART MUSEUM

01

2000/10/20
2020/05　再録

nEWS うらわ美術館ニュース

Works of Urawa Artists
EI-KYU

瑛九
「春」
1959（昭和34）年
油彩、カンヴァス
60.0×72.7cm

ゆかり作家の中心の一人である瑛九は、1951（昭和26）年に浦和に移り住んで以来、1960（昭和35）年に没するまでの9年をこの地で過ごしました。「春」は、死の前年に制作された作品です。点描による抽象画の制作に没頭していた最晩年の作品で、大作の多いこの時期の作品としては割合小ぶりな作品に仕上がっています。黄色を基調とする華やかな色彩とリズミカルな大小の点描によって、アクセントのきいたある種の浮揚感と無限感を感じさせます。また悠揚とした雰囲気の中にも雄弁な表情を見せてもいます。瑛九の「光」に対する関心はフォトデッサンの中にも看取されたものでしたが、この作品にも文字通りきらめく春の「光」が充溢しています。　（H.M）

Art of Books
MURAOKA Saburo

村岡三郎
「IRON BOOK B.塩の線」
1986（昭和61）年
鉄、塩の河床、ラバー
68.0×77.0×50.0cm

村岡三郎の「IRON　BOOK」は、1986（昭和61）年中国のタクラマカン砂漠への旅に触発され、帰国後7点組の「鉄の本」として制作されました。そのうちの一つ、この「塩の線」のページには現地で採取された塩の河床がはめ込まれ、鉄の塊が持つモノトーンの重々しい存在感と寡黙な相貌を見せています。また制作時に使用された「熱」は、鉄の表面にその痕跡を留め、いわば「物質化した熱」とでもいうものを感じることが出来ます。本の形を借りたこの彫刻は、その造形美を主張するものではありません。また彫刻の形を借りたこの本は、読まれるものでもありません。採取されたオブジェや内包された熱を通して、その思念や観念を感じ取るべき「本」なのです。　（H.M）

一部改訂を加え、再録しています。